

■ 概況

5/31~6/6のNYMEX・WTIは、64.73~67.04ドルの範囲で軟化して推移した。

6月7日は、経済悪化と米国の経済制裁に伴うベネズエラと経済制裁再開に伴うイランの原油供給の減少懸念で、大幅反発した。特に、ベネズエラからは港湾機能低下により原油供給に遅れが生じていると伝わった。7月限の終値は前日比1.22ドル高の65.95ドルだった。

週末8日は、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が862基(前週比1基増)と2015年3月以来の高水準となったこと、6日のEIA週報で、5月最終週の米国産油量が日量1080万バレルと記録的水準となったことなど、米国における供給増加懸念の一方で、中国の貿易統計で5月の中国原油輸入量が日量920万バレルと前月比同40万バレル減少したことで、反落した。7月限の終値は前日比0.21ドル安の65.74ドルだった。

週明け11日は、朝方、サウジとロシアの増産報道で売りが先行したが、増産幅は小幅でベネズエラやイランからの供給減少を補う程度で需給悪化には至らないとの見方から、持ち高調整の買い戻しもあり、反発した。7月限の終値は前日比0.36ドル高の66.10ドルだった。

12日は、22日のOPEC総会、OPEC・非加盟国合同会議の開催の前に様子見姿勢が強まり低調な商いであったが、ショートカバーの動きが見られ、続伸した。7月限の終値は前日比0.26ドル高の66.36ドルとなった。

13日は、EIAの米国在庫週報で、原油・製品とも市場予想を上回る取り崩しが報告されたことから、3日続伸した。ただ、22日予定のOPEC総会とOPEC・非加盟国合同会合での減

産緩和観測が根強く、上値を抑えた。7月限の終値は0.28ドル高の66.64ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週73.20~75.20ドルの範囲で推移した。6月7日73.60ドル、8日74.70ドル、11日74.20ドル、12日74.50ドル、13日73.30ドルで推移した。

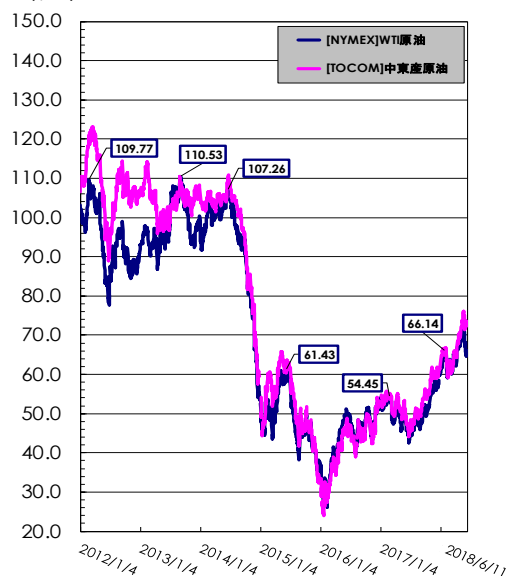
為替は、前週108.70~109.92円の範囲で推移した。6月7日110.16円、8日109.87円、11日109.41円、12日110.36円、13日110.48円で推移した。

主要元売会社の6月第3週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きとなった。原油価格はやや値下がりしたが、為替レートは円安で、原油調達コストはわずかに値上がりした。

そのような中で、6月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同横ばい、灯油は同5円の値上がり(18㍻ベース)だった。ガソリンは10週ぶりの値下がり、軽油は8週ぶりに値上がり止まり、灯油は8週連続の値上がり(18㍻ベース)だった。この週(6月第2週)の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0~1.5円の値下げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/3 ~ 6/9	2,915 ▼ -73	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	74.4 ▼ -1.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/9	13,741 ▲ 106	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/11	73.61 ▲ 0.62	▲ 26.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/11	66.10 ▲ 1.35	▲ 20.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	71.21 ▲ 2.68	▲ 17.26
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	49,011 ▲ 2,424	▲ 11,169
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.41 ▼ -1.32	▲ 2.11
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/11	110.41 ▲ 0.25	▲ 0.82

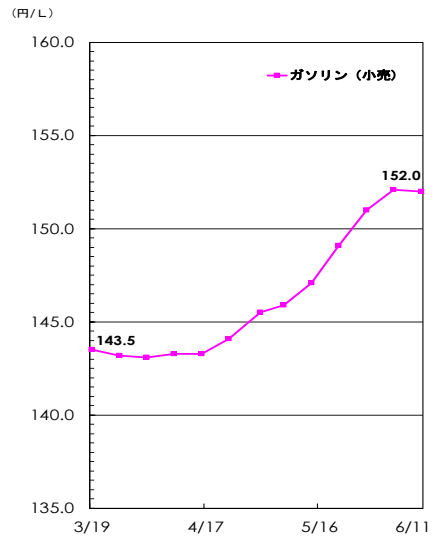
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/3 ~ 6/9	833 ▼ -60	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	876 ▲ 71	▼ -	
	輸出	"	52 ▲ 52	▲ -	
	在庫	6/9	1,758 ▼ -96	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/5 ~ 6/11	67.5 ▼ -0.9	▲ 18.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/5 ~ 6/11	63.8 ▼ -0.2	▲ 16.3
		(TOCOM/中部)	6/11	64.0 ▼ -0.5	▲ 17.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/11	152.0 ▼ -0.1	▲ 20.4	

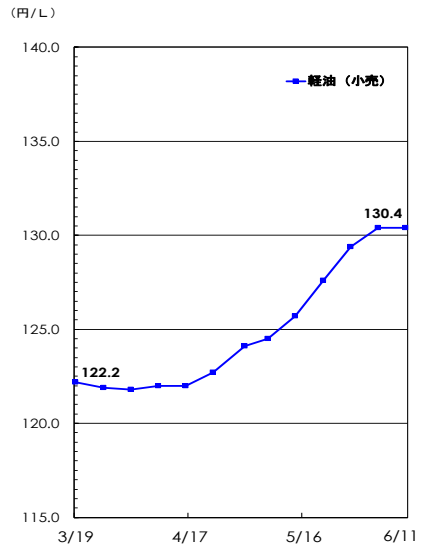
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

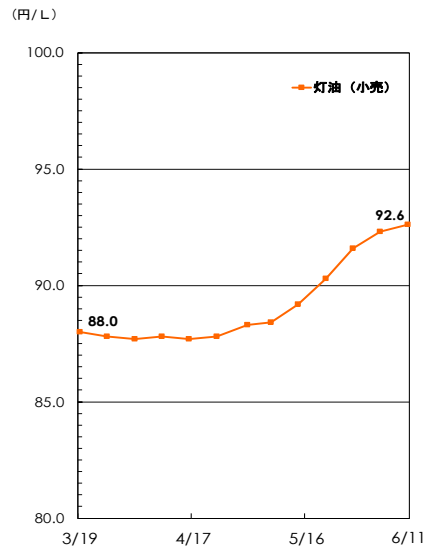
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/3 ~ 6/9	697 ▼ -22	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	611 ▼ -6	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -94	▼ -	
	在庫	6/9	1,556 ▲ 86	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/5 ~ 6/11	69.1 ▼ -0.6	▲ 21.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/5 ~ 6/11	68.8 ▲ 0.9	▲ 20.8
		(TOCOM/中部)	6/11	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/11	130.4 ➡ 0.0	▲ 19.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/3 ~ 6/9	70 ▼ -22	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	62 ▼ -24	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/9	1,527 ▲ 9	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/5 ~ 6/11	67.9 ▼ -1.1	▲ 21.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/5 ~ 6/11	66.7 ▲ 0.8	▲ 22.8
		(TOCOM/中部)	6/11	66.5 ➡ 0.0	▲ 22.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/11	92.6 ▲ 0.3	▲ 15.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月13日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が前週比410万バレル減と市場予想(同270万バレル減)を上回り取り崩され、ガソリン在庫も230万バレル減、中間溜分在庫も210万バレル減と市場予想に反して取り崩されたことから、3日続伸した。ただ、22日開催予定のOPEC総会とOPEC・非加盟主要産油国会合で、現行の協調減産の緩和観測も根強いことが、上値を抑えた。ドル安・ユーロ高の進行による割安感が上伸を支えた。この日、米連邦準備制度理事会(FRB)は利上げを決定したが、ドルは買い戻されたものの、原油市場への影響は限定的だった。7月限の終値は前日比0.28ドル

高の66.64ドル、8月限の終値は前日比0.24ドル高の66.52ドルだった。

EIAによると、6月11日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.9セント値下がりの1ガロン2.911ドル(84.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.9セント値下がりの3.266ドル(95.1円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルも2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年6月3日～6月9日に休止したトッパー能力は68.5万バレル/日で、前週に対して0.5万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は291.5万klと、前週に比べ7.3万kl減少。前年に対しては21.8万klの減少。トッパー稼働率は74.4%と前週に対して1.9ポイントの減少、前年に対しては5.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてA重油とC重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/6.8%減、ジェット/11.7%減、灯油/23.6%減、軽油/3.1%減、A重油/0.0%増、C重油/4.8%増。今週のC重油の輸入は8.3万kl(前週比1.4万kl増)。軽油の輸出は0.0万kl(前週比9.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は87.6万kl(対前週8.8%増)と前週比で2週振り増加となり、11週連続で100万klを下

回った。

ジェット11.1万kl(対前週4.9%減)、灯油6.2万kl(対前週28.5%減)、軽油61.1万kl(対前週1.0%減)、A重油17.6万kl(対前週21.9%増)、C重油15.7万kl(対前週20.6%減)。

(単位:千KL)

	今週 (6/3 ~ 6/9)	前週 (5/27 ~ 6/2)	前週比	
ガソリン	876	805	▲ 71	(9%)
ジェット燃料	111	117	▼ -6	(-5%)
灯油	62	86	▼ -24	(-28%)
軽油	611	617	▼ -6	(-1%)
A重油	176	145	▲ 31	(21%)
C重油	157	198	▼ -41	(-21%)
合計	1,993	1,968	▲ 25	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月9日時点の在庫は、ガソリンとA重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは175.8万kl、前週差9.6万kl減。前年に対しては22.5万kl少ない。

灯油は152.7万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては11.0万kl多い。

軽油は155.6万kl、前週差8.6万kl増。前年に対しては12.7万kl多い。

A重油は77.5万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては3.7万kl少ない。

C重油は217.3万kl、前週差6.8万kl増。前年に対しては4.8万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (6/9)	前週 (6/2)	前週比	
ガソリン	1,758	1,854	▼ -96	(-5%)
ジェット燃料	1,041	1,001	▲ 40	(4%)
灯油	1,527	1,518	▲ 9	(1%)
軽油	1,556	1,470	▲ 86	(6%)
A重油	775	776	▼ -1	(-0%)
C重油	2,173	2,105	▲ 68	(3%)
合計	8,830	8,724	▲ 106	(1.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月5日から6月11日の原油価格は前週対比でやや値下がりがりしたが、為替レートは円安で、原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、6月5日から6月11日までの間、ガソリン121～122円台で値下がり後ほぼ横ばい、軽油69円台で値下がり後横ばい、灯油67～68円台で値下がり後ほぼ横ばい推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン122～123円台で

出入り激しく値下がり、軽油69～70円台でゆるやかに値下がり、灯油66～67円台で出入り後値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン117～118円台で出入り後値下がり、軽油68～69円台で横ばい後値下がり、灯油66～67円台で値上がりして推移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、ガソリンは全ての取引で値下がりがりしたが、灯油と軽油は、陸上で値下がりがりしたもの、海上・先物で値上がりした。

6月第3週(6月14日～6月20日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月5日～6月11日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は1.1円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値下がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.2円の値下がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。原油価格はやや値下がりがりしたが、為替は円安で、原油コストはわずかに値上がりした。

6月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/5～6/11)	前週 (5/29～6/4)	前週比
レギュラー	67.5	68.4	▼ -0.9
灯油	67.9	69.0	▼ -1.1
軽油	69.1	69.7	▼ -0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/5～6/11)	前週 (5/29～6/4)	前週比
レギュラー	63.8	64.0	▼ -0.2
灯油	66.7	65.9	▲ 0.8
軽油	68.8	67.9	▲ 0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/5～6/11実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.9	▼ -0.2	▼ -0.5
灯油	▼ -1.1	▲ 0.8	▼ -0.2
軽油	▼ -0.6	▲ 0.9	▲ 0.2
A重油	▼ -0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月11時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の152.0円、軽油は同横ばいの130.4円、灯油は同0.3円高の92.6円(18歳未満では同5円高の1,667円)だった。ガソリンは10週振りの値下がり、軽油は8週ぶりに値上がり止まり、灯油は8週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは23府県、横ばい5県、値下がり19都道府県だった。横ばいは、長崎県・山梨県・滋賀県・岩手県・千葉県だった。全国最安値は徳島県の144.7円(同0.2円高)、次が埼玉県147.9円(同0.1円安)、最高値は長崎県の160.9円(同横ばい)だった。最も値上がりしたのは、0.6円高の岡山県(149.0円)、最も値下がりしたのは、1.1円安の群馬県(151.0円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりがりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下げとなった。10週ぶりにガソリン小売価格は値下がりがりした。

今週の原油価格はやや値下がりがりしたが、為替レートも円安で、原油コストはわずかに値上がりした。次週(6月11日)のガソリンの小売価格は横ばいが予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (6/11)	前週 (6/4)	前週比	直近高値
レギュラー	152.0	152.1	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	92.6	92.3	▲ 0.3	08/8/11 132.1
軽油	130.4	130.4	→ 0.0	08/8/4 167.4

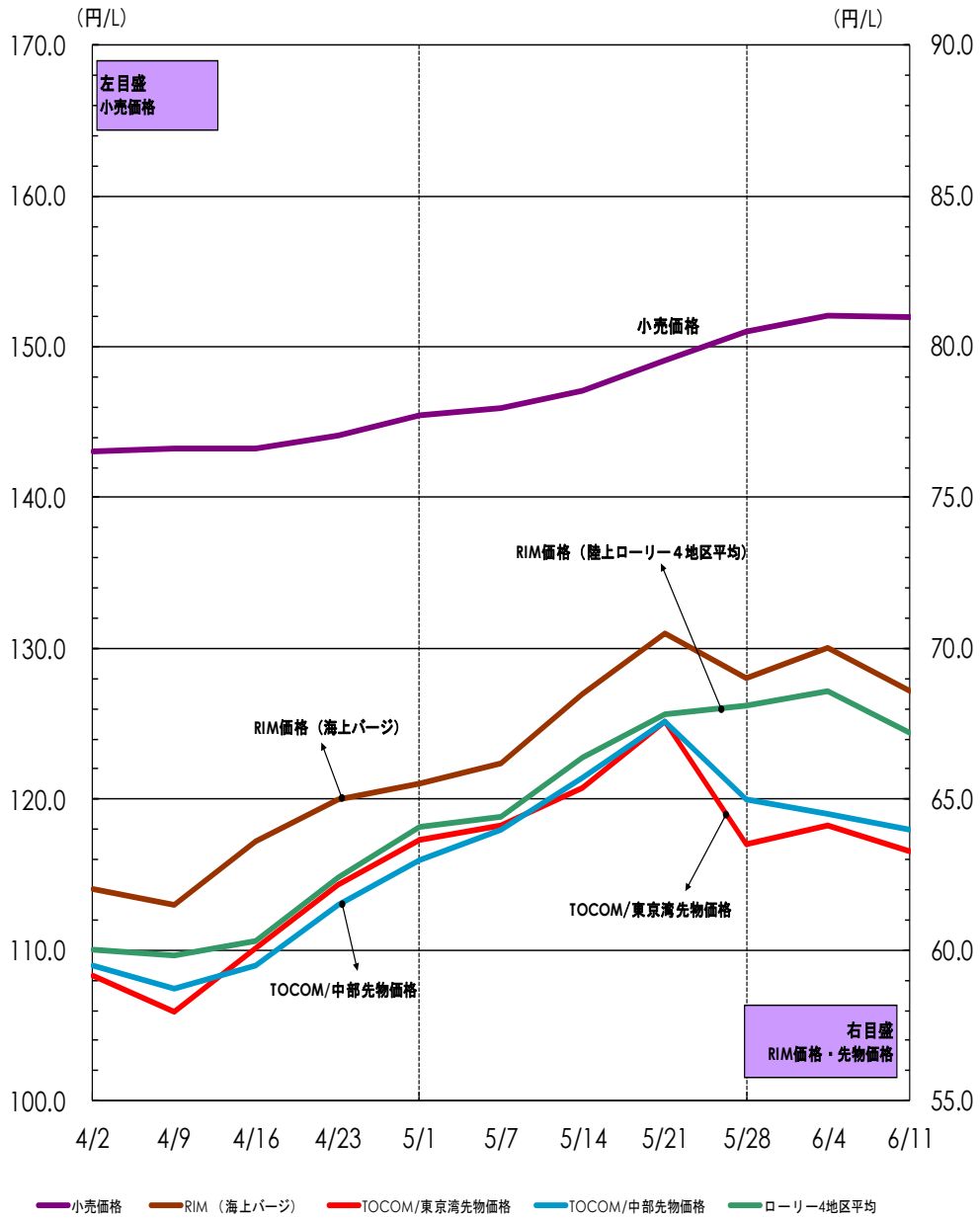
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/4/2 ~ 2018/6/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第11号)の公表は、6/22(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。